


## 幼小中一貫を目指す附属学園における幼稚園の葛藤

好きが広がり
世界を拓くプ
ロジェクト

幼稚園の
あそび活動

?

小中の
PBLに
連結

幼児教育は、学校教
育の下請けではない

遊びの目的
は遊び以外
の何物でも
ない

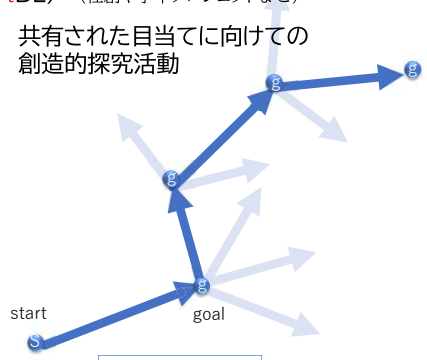
あそびの
独自性
共鳴探究

小中の
PBLの
土台となっ
ている

幼児教育は、学校教育への何を準備しているのか教師が自覚していることが重要だ

## プロジェクト型学習(Project-Based Learning)（PtBL）（社創や学年プロジェクトなど）

共有された目当てに向けての
創造的探究活動




目当ての探究
（＋手段の探究）

## 課題解決型学習(Problem-Based Learning)（PmBL）（教科の学習の中で展開しやすい）

与えられた目当ての下で手段を
解明する探究活動

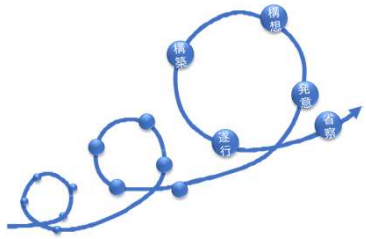



手段の探究

GとSを繋ぐ科学的抽象概念の創造活動

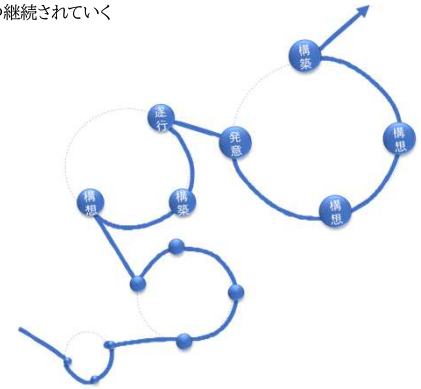
## PBLの活動の過程

発意・構想・構築・遂行・省察のプロセスが見られる

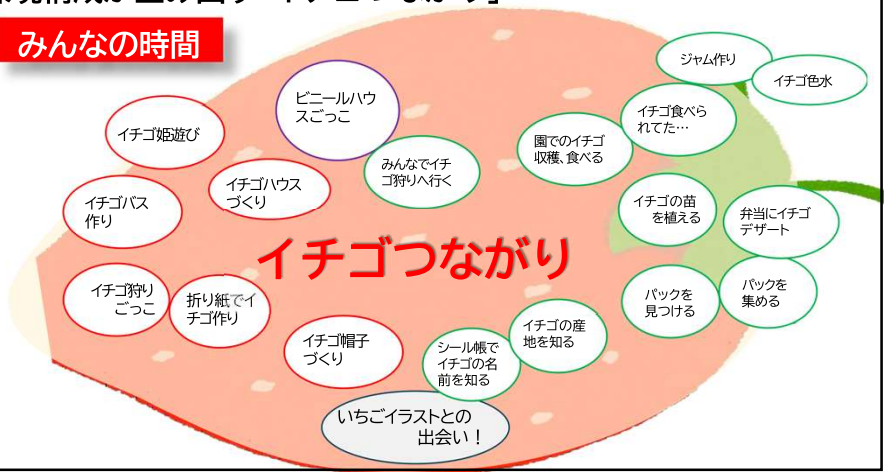



## 幼児期の遊び活動の過程

遊び活動は目当ての達成が目的ではないので、各段階で共有されたイメージに沿って、別の活動に転換 しつつ継続されていく



## 環境構成が生み出す「イチゴつながり」




## 個々の小さなプロジェクトが互いに響き合いながら展開

リアルな体験や知識が、イメージをより膨らませたごっこ遊びを通して展開する

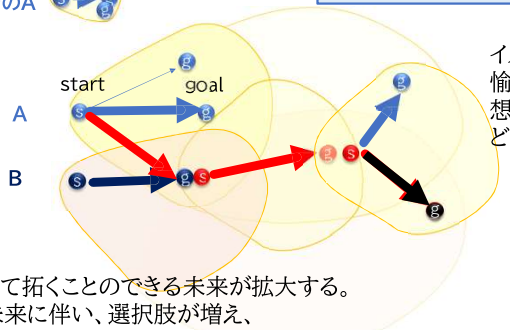



拓くことのできる未来が小さい
（選択肢がない）

経験が少ないときのA



幼児期の遊びは、共有できる未来を拓くことであり、未来を創造し探究することが楽しい

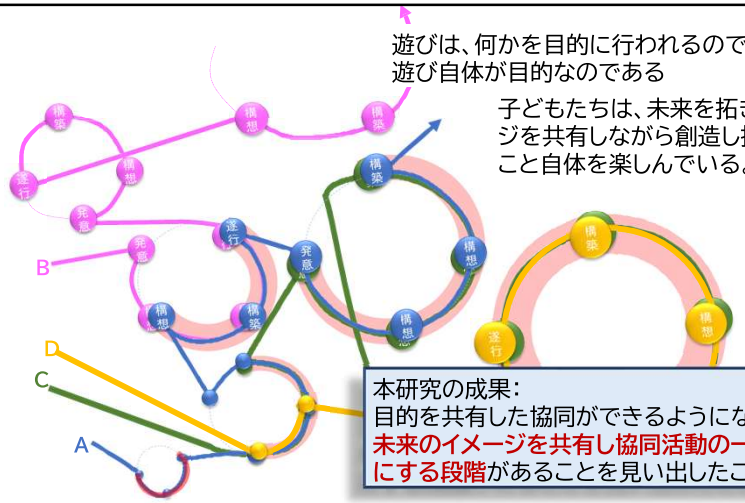



イメージをひろげ共有を愉しむことは、発意・構想・構築・遂行・省察のどの部分でも構わない。

遊びを介して拓くことのできる未来が拡大する。
拡大する未来に伴い、選択肢が増え、
共有できるゴールを見い出すことができるようになる

遊びは、何かを目的に行われるのではない
遊び自体が目的なのである

子どもたちは、未来を拓き、イメージを共有しながら創造し探究すること自体を楽しんでいる。




本研究の成果：
目的を共有した協同ができるようになる前に、**未来のイメージを共有し協同活動の一部を共にする段階**があることを見い出したこと。

## 協働性(collaboration)の発達

協働性の発達 | 就学前（年少児まで / 年長児頃） | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年以降

**協働**:社会的正義の実現に向け協働することのはじまり。小学校高学年以降　同じ目的に向って協同し、目的達成することが楽しい。

分子合成信号の稼働が前提。目的と手段の分離。多次元任意変換の成立

**協同**:目的や手段の共有のはじまり。5歳児以降　同じ目的に向って協同する、到達するための手段を開発し、目標に到達することが楽しい。

**協同**:未来のイメージの共有のはじまり。3歳児以降　同じ未来をイメージし活動の一部を一緒にすることが楽しい

ユヴァル・ノア・ハラリ「ハピエンス全史」2016(日本語訳)フィクション(イメージ)による相互主観性(共同主観性)が認知革命を引き起こした

一緒の行動をとれることが楽しい

**共同**:現在の行動共有のはじまり。3歳児　今一緒に同じ行動をとれることが楽しい

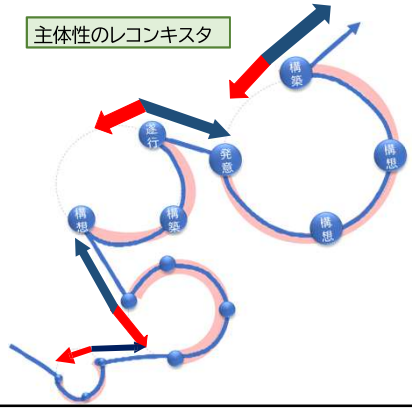
微笑み返しからはじまる

**共感**:共感共有のはじまり。0歳児　共感することが楽しい

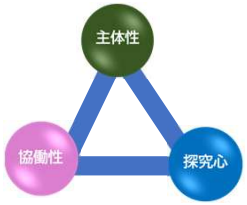
## 幼児期の遊び活動の過程

幼児の協同において離れたことに意義がある

主体性のレコンキスタ

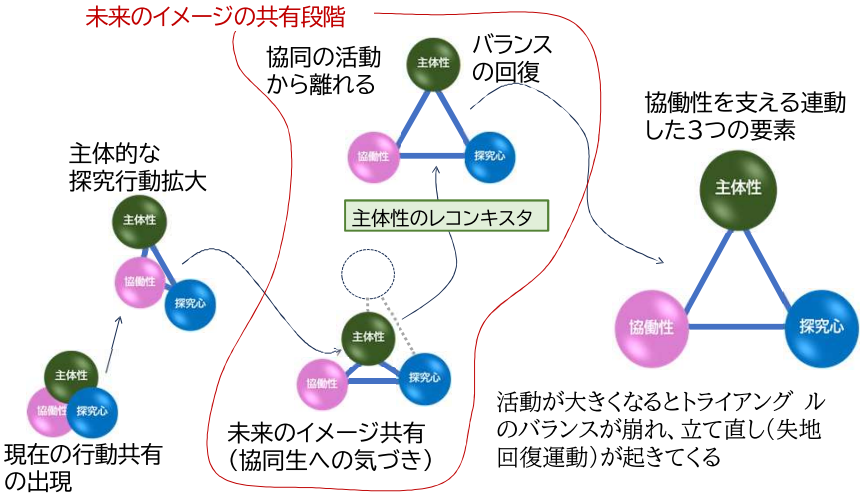



## プロジェクト学習を構成する3つの要素



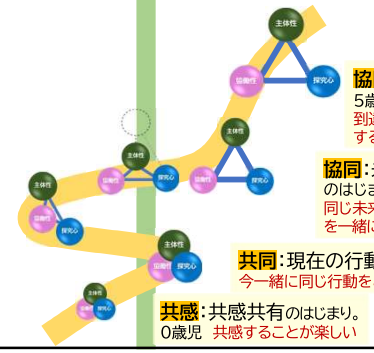

3要素が一体となってプロジェクト型学習を支えている。協働性を切り離した主体性はない。協働の中でこそ、主体性が培われる。同様に探究心のない主体性はない。このような関係が主体性ばかりか協働性と探究心に関しても成り立っている

## 未来のイメージの共有段階




## 協働性(collaboration)の発達

協働性の発達 | 就学前（年少児まで / 年長児頃） | 小学校低学年 | 小学校中学年 | 小学校高学年以降



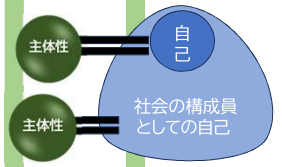
**協働**:社会的正義の実現に向け協働することのはじまり。小学校高学年以降　同じ目的に向って協同し、目的達成することが楽しい。

**協同**:目的や手段の共有のはじまり。5歳児以降　同じ目的に向って協同する、到達するための手段を開発し、目標に到達することが楽しい。

**協同**:未来のイメージの共有のはじまり。3歳児以降　同じ未来をイメージし活動の一部を一緒にすることが楽しい

**共同**:現在の行動共有のはじまり。3歳児　今一緒に同じ行動をとれることが楽しい

**共感**:共感共有のはじまり。0歳児　共感することが楽しい



令和8年度福井大学教育学学部附属幼稚園　第36回幼児教育研究集会
好きが広がり、世界をひらく
シンポジウム
遊びの広がりと深まり、そのあいだにあるもの

探究する幼児の今は、未来の下請けをする時間なのではない

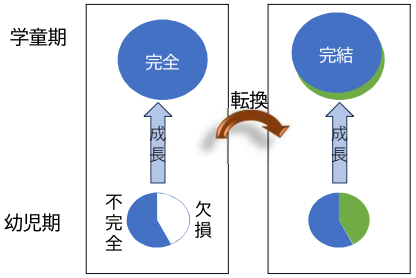
幼児は今の遊びを楽しんでいる

しかし同時に

幼児は未来にかたちを与え、遊びは明日を創っている

終

幼児期は学童期の準備段階ではない。
幼児期はそのままの形で完結している




成長は不完全が完全になるプロセスではない。完全と見えたのは部分しか見ていないからである

幼児期は不完全に見えて完結している。足りないと思われていたことが重要な役割を果たしている

実は、幼児期に限らず学童期の学びも
また未完のまま完結している

ああでなければならない
こうでなければならないと
いろいろに思いをめぐらしながら子どもを見るとき
子どもは実に不完全なものであり
鍛えて一人前にしなければならないもののようである。
いろいろなとらわれを棄て
柔らかな心で子どもをよく見るとき
そのしぐさのひとつひとつが実におもしろく
はじける生命のあかしとして目に映ってくる。
「生きたい、生きたい」といい
「伸びたい、伸びたい」と全身で言いながら
子どもは今そこに未完の姿で完結している。

大槻武治「未完の姿で完結している」